

No

8

直接自然物や具体物にかかわり、その物の特徴を感じ取ったり  
量的感覚を言葉にしたりする中で、文字や数量に関心をもつ。

… ものとのかかわり …

## 秋の自然に触れながら 収穫の感動や喜びを味わう中で 10月

### ☆ 視点に関わる背景（10月中旬頃までの状況） ☆

- ・ 4月から、幼稚園でトマト・キュウリ・ナス・カボチャ・サツマイモなど様々な種類の野菜を栽培してきた。5歳児の子ども達は、箆に収まる程度の数だと、すぐに数え、「今日は〇〇が△個採れた〜。」と報告にくるようになってくる。
- ・ 秋になると、園の周囲では、木の実等をたくさん拾うことができるので、拾った自然物を使ってお店屋さんごっこなどをすることが多い。子どもたちは、お客さんを意識して作ったものを並べたり、その店が何なのかを示そうと文字に絵を添えて看板を作ったりしている。

### ☆ 接続期の状況（さつまいもを収穫した後で） ☆

子どもの姿・子ども同士のかかわり	保育者の援助・視点
<p>サツマイモは収穫の最後を締めくくるときの野菜だったので、掘り起こすだけでなく遊びに取り入れ、収穫の醍醐味を味わわせることができるような環境構成を心がけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ サツマイモを見て感じたことを話す。 A：これ、でっかい！ B：ネズミみたいに尻尾がついてる。 C：蛇イモもあるよ。</li> <li>・ 子どもたちは形に着目して、仲間分けを始める。 D：でっかいのとネズミのと、蛇みだいに細いのとかがいいんじゃない？</li> <li>・ 子どもたちは、蔓を手に縄跳びをしながら、自分にちょうどいい長さの蔓を探し始める。 E：あ〜、これ、だめだ。長すぎて跳びにくい。 F：もう少し重たい蔓はないかな。</li> </ul> <p>ちょっと太い蔓を手渡してみたら…</p>  <p>あれっ？なんか重いけど、跳びやすいぞ。</p> <p>わあ、ちょっとずつ高くなっていく。よーし、跳んでみるぞ。</p>	<p>サツマイモは収穫の最後を締めくくるときの野菜だったので、掘り起こすだけでなく遊びに取り入れ、収穫の醍醐味を味わわせることができるような環境構成を心がけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 掘り起こした後はサツマイモの太さや数にも関心が向くようにシートを用意した。</li> <li>・ いろいろな大きさや形のサツマイモに気づくよう「いろいろなサツマイモがあるね。」等と声をかける。</li> <li>・ 子どもの声を受け止めながら、仲間分け等ができないか促してみる。</li> <li>・ 引っっこ抜いて畑の脇においておいた蔓に着目させ、そのものの特徴を感じ取りながら遊ぶよう促す。</li> <li>・ 子どもたちの動きをみながら、運動会で縄跳びに取り組んだことに触れ、蔓を縄にして跳んでみせる。</li> <li>・ 自分にちょうどいい長さや重さの蔓を探すよう個々に声をかけながら、働きかける。</li> </ul> <p>走り高跳びのバーに見立てて</p> 

### ☆ 接続期の指導場面における配慮事項 ☆

子どもたちが、ものにかかわり試行錯誤する時間を保障することで、子どもは、やがて発見や気づきを言葉に出す。

量的感覚や文字・数への関心は子どもの言葉を通して捉えることができるが、個人差が大きい年代である。保育者は具体物に触れる経験が豊かになるように環境構成し、遊びの一部に数量や文字に関する要素が含まれるように仕掛けをしている。